

松阪牛

かわら版
5号

松阪牛協議会副会長 森本武治さん



匠の技、脈々と その2

松阪市飯南町深野に暮らす森本武治さん（60）は、松阪牛の肥育一筋。勤めを辞め、牛飼い名人といわれる父親の跡を継いで、16年になる。

牛が好きでたまらないという森本さんの案内で牛舎に足を運ぶと、牛たちが一斉に柵の間からぬうつと顔を出し、何かをねだるような目をして森本さんの方をじっと見た。

「えさやりだけではないんですよ」と、森本さん。牛の健康状態を確かめたり、毛並みを整えたりと、日に何度となく牛舎を訪れては、牛に触れる。毎日繰り返すうちに、牛の性格にもよるが、大抵は人懐こい牛に育つのだという。

牛が甘えるような仕草を見せるのは、手間隙を惜しまずに、少ない頭数に愛情を注ぐ、昔ながらの肥育方法を守る農家の牛舎ならではの。家族同様に暮らす牛と農家は固い絆で結ばれているのだ。

森本さんが、牛を飼っていて良かったと思う時は「肉屋さんから、肉質についてほめ言葉をもらった時」。育て上げた3年間の苦勞が、吹き飛ぶのだという。逆に、牛の能力が引き出せず、思ったような肉質に育てられなかった場合は、次こそは一と、やる気を起こし、さらに肥育に励むのだという。

松阪牛個体識別管理システムによって、「消費者が身近に感じるようになった」という森本さん。「これからも、一頭一頭を大切に育て上げていきます」と、胸を張った。



松阪牛ものがたり

信頼への模索⑤

国内初のBSE発生から一カ月余りが経過した平成十三年十月十六日、二日後に始まる、国内のすべての解体された牛を対象にしたBSE検査の試薬が、県松阪食肉衛生検査所に到着。待ちに待った全頭検査に向けた準備が着々と進められていた。

一方、九月二十三日に「牛肉の安全が確認できるまで」と、当面の使用を見合わせていた、市内の学校給食への牛肉の使用についても、全頭検査の開始を待つて、再開する方針を決定した。千葉の乳牛がBSEの疑いがあると発表されてからおよそ四十日。検査の開始で、確かに、安全な牛肉しか市場には出回らなくなる。しかし、この四十日の間に、果てしなく広がった消費者への不信感や風評は、検査とともに一気に払拭できるのか。松阪市役所の担当者をはじめ、松阪牛の関係者らは、期待と不安で検査開始の日を迎えていた。

検査が始まる十八日早朝、県松阪食肉公社には、十六頭の黒毛和牛が次々と到着し、獣医師らが、健康状態などをチェックした上で、解体された。

午後、食肉公社での解体処理の状況などを確認した上で、当時の野呂昭彦市長が松阪市役所で記者会見を開き、全国から集まったマスコミに「今日以降、出荷する肉については安全性を保証します」と、安全宣言をした。

その場で、風評を払しょくするための具体的な取り組みとして、
①学校給食への牛肉使用を二十日から再開
②十一月に市内で開かれる全国お茶まつりで消費者にPR
③松阪肉の安全・安心をPRするのぼり旗の全国配布
の三点を発表した。

つづく

松阪牛個体識別管理システム 信頼の証です

シールに印字された10ケタの個体識別番号で松阪牛の血統や農家の情報、移動履歴などを知ることができます。

皆さまに
安全で安心な
松阪牛をお届けする証を目印にお買い求めください。



松阪牛豆知識

牛のわら草履



左の写真は、牛のわら草履です。今では姿を消してしまいましたが、昭和の始めごろまでは、松阪駅から列車に揺られ、東京に出荷される牛に、農家が履かせていたということです。牛の脚に馴染むよう、

水に浸して柔らかくした農家もあるそうで、道中の無事を祈る農家の愛情の形ですね。今では編める人も数えるほどになりましたが、牛への農家の愛情は、昔も今も変わりません。

発行

松阪市役所農林水産課畜産係

三重県松阪市殿町

TEL0598(53)4119

松阪牛協議会ホームページ <http://www.matsusakaushi.jp> もご覧ください